

茨城県における総合防除の 推進に向けた取組み

総合防除の普及推進を図るための令和6年全国キャラバン

2024年10月23日

茨城県農業総合センター園芸研究所
鹿島 哲郎

本日の内容

- ① 国の施策や情勢
- ② 茨城県における総合防除の推進
- ③ 茨城県における総合防除計画・遵守事項の策定
- ④ 総合防除の普及・推進

はじめに

菅首相が「2050年カーボンニュートラル宣言」（2020年）

各省庁がカーボンニュートラルの実現に向けた施策を発表

農林水産省が「みどりの食料システム戦略」を策定（2021年）

→食料生産と持続性を両立させる長期目標

「改正植物防疫法」が施行（2023年）

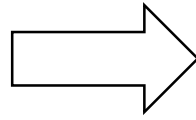
→総合防除が明記

「改正農業・食料・農村基本法」が施行（2024年）

→食料の安定供給、農業の持続的発展、・・・

国の施策や情勢

総合防除の考え方は、
半世紀前からある



「総合防除」
深谷・桐谷/編、1973年

国による制度等整備（2003年～）

- ・「農林水産環境政策の基本方針」が策定
- ・「IPM実践指針」が策定
- ・「環境保全型農業」の推進

「みどりの食料戦略システム」、「改正植物防疫法」、
「総合防除基本指針」などが策定・施行

技術的情勢の変化

- ・ 1970年代以降、新しい概念の要素技術の開発
（交信かく乱剤、黄色粘着トラップ、生物農薬など）

茨城県における総合防除の推進

総合防除に繋がる資料の作成

【農作物病害虫・雑草防除指針】（1986年～）

- ・～2003年：主な農薬の掲載、農薬安全使用、耐性菌・抵抗性害虫対策（ミツバチ、天敵への農薬の影響表は参考資料）
- ・2004年～：「環境にやさしい病害虫防除」を新設
耕種的防除、物理的防除、生物的防除を記載
- ・2012年～：「環境にやさしい病害虫防除」を拡充
- ・2023年～：「総合防除の考え方」を記載

【果樹等病害虫参考防除例】

- ・1965年：茨城県で初めて「ナシ病害虫防除暦」を作成
- ・1970年代：ナシ黒星病の発生地点率は90%～100%
- ・1994年～：DMI剤が普及し、17%～42%で推移
- ・2004年：「ナシ病害虫防除回数削減トライ事例」を作成
- ・2008年：黒星病が多発傾向のためトライ事例休止

茨城県における総合防除の推進

総合防除に繋がる茨城県の事業等

- ・ 環境保全型農業直接支払い
- ・ 有機農業の推進
- ・ 特別栽培の推進
- ・ 茨城県総合防除計画の策定

茨城県総合防除計画の策定

- ・ 2022年：「総合防除基本指針」を参考にたたき台
- ・ 2023年：「茨城県総合防除計画」を策定
- ・ 茨城県が対象とする32作物、延べ138指定病害虫
+ 5作物、11指定外病害虫
- ・ 平易な用語・表現、実行しやすい方法を採用
- ・ 多くは、既に「防除指針」にも記載
- ・ サツマイモ基腐病を遵守事項に

遵守事項：サツマイモ基腐病

【栽培者が遵守すべき事項】

- ・ 県等が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・ 本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、ほ場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・ 本病発生ほ場では、2年間、さつまいもを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・ 本病発生ほ場から種いもを採取しない。
- ・ 本病発生ほ場では、発生の拡大が無いことを確認する。

- ・ 発生時の防疫措置では、役割分担・行動指針が必要



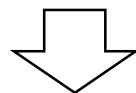
茨城県サツマイモ基腐病対策基本指針（2021年）

総合防除の普及・推進

総合防除とは（農林水産省）

- ・ 予め病虫害・雑草の発生しにくい環境を整え
- ・ 病虫害の発生状況に応じて多様な防除方法を組み合わせ
- ・ 化学農薬の使用量を必要最低限に抑え
- ・ 病虫害・雑草を経済的な被害が生じるレベル以下に抑制

- ・ 農薬以外の方法は、概して効果が緩慢、手間がかかる
- ・ 圃場、立地、環境等により方法論が変わる
- ・ 経営体によって目標設定が変わる



総合防除はオーダーメイド

総合防除の普及・推進

既存技術の整理・改良

新規・要素技術の開発

天敵利用の推進

制度の整備

課 題

- ・ 関係機関同士、生産者との認識の統一が必要
- ・ 全体を巻き込んだ議論が必要
- ・ 技術だけでなく総合防除の概念の普及が必要
- ・ コーディネーターが必要
- ・ 新しい要素技術を開発するチャンス
- ・ 目標は、短期的・中長期的の両方が必要

ご清聴ありがとうございました。